

## 京都大 2021年度入試の変更を発表

河合塾

2018/12/14

このほど、京都大は2020年度に実施する2021年度一般入試の変更（予告）を発表した。大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の「英語」受験者に求める要件のほか、「国語」記述式問題の扱いについて公表された。詳細は以下の通り。

**■出願者にはCEFRのA2以上の英語運用能力を求める**

一般入試における共通テストの「英語」については、出願者にCEFRのA2以上の英語の言語運用能力が求められる。運用能力の確認方法は次の通りである。

**【出願者の言語運用能力の確認方法について】**

- ① 「大学入試英語成績提供システム」を通じて英語にかかる民間の資格・検定試験（以下、英語参加試験）の成績を提出する場合は、その成績でCEFRのA2以上に相当することを確認する
- ② 在学するまたは卒業した高等学校等の校長がCEFRのA2以上の英語の言語運用能力が出願者に備わっていると認める書類を提出する場合は、その書類の記載内容によって確認する

※共通テストの外国語において英語を受験した出願者が対象

※出願者が共通テストの英語リスニングの免除を受けることを示す書類の写し、または医学上の理由により英語参加試験を受検することができない旨を記載した医師の診断書を提出する場合は、この確認を受ける必要はない

京都大でも東京大に続き、CEFRのA2レベルが実質的な出願要件となる。ただし、必ずしも英語参加試験の成績に限定せず、出身学校が作成する書類での証明を認める点も東京大と同様である。

**■国語の記述式問題は点数化して合否判定に利用**

大学入学共通テストの「国語」の記述式問題の活用についても公表された。京都大では国語記述式の採点結果（段階別評価）を点数化し、マークシート式問題の点数と合算して国語の成績とする。具体的な方法については、大学入試センターが段階別評価に関する内容を発行後に、検討のうえ公表するとしている。

**■特色入試については年度内を目途に予告**

このほか、大学入学共通テストの教科・科目が、現行のセンター試験の教科・科目の利用内容から変更する場合は2018年度内に予告すること、特色入試における英語参加試験、共通テストの利用についても2018年度内を目途に予告することがあわせて発表された。